

街道を歩く

中山道：鵜沼宿西一新加納



新加納

鵜沼一加納間は四里八丁 この間は荒涼下原野であり集落の発達が遅れていた。明治の中頃までは追いはぎなど旅人の難所の一つであった。
そのためここに宿泊が出来る集落がうまれるのも当然かも、しかし出来た時期は定かでない。
宝暦6年(1756)の”岐蘇路記”に「加納東一里半に小なる町あり」とありこのころには交通集落があった。
鵜沼宿と加納宿の中間に位置し、旗本坪内氏の陣屋の置かれた場所であり”間の宿”として栄えた。
皇女和宮降嫁のとき休息所とされた。

間の宿

街道の本宿と本宿の間にあって旅人の休泊などを引受けたことから自然発生的にできた交通集落
その主なものが立場、煮売茶屋。
中山道では大井一中津川間の茄子川村と新加納。

日吉神社

祭神 大山咋神(オヤマケイノカミ)
本宮は滋賀県大津市日吉大社
その分社が平安時代に勧請されたといわれるが当社の創建不詳。
昭和47年頃まで近くに”ひょうたん池”があり蝦蟇が生息していたという。
4月にはかえる祭りがあったという。

梅屋 (立場茶屋 利兵衛)

文久元年(1861)10月27日皇女和宮下向の際の休憩所となっている。
”せんき妙薬本家”と称し薬業も営んでいた。

ねずみ小僧墓元は街道筋に、大正10年ここに移される。
森の中にあった”いろは茶屋”の主人が旅人を殺しては金品を奪っていた。ある時娘が被害に遭いそうになったときねずみ小僧が主人を殺し、娘を助けた。後に娘は江戸で奉公。
娘は助けられたのはねずみ小僧と知る。ねずみ小僧が処刑されたのを知り墓を建てる。近くに播隆上人碑。
(幼稚園と駐車場の間)

各務原の由来

各務原の語源は鏡野。
この辺りに古代 鏡作部が住んでいて各務の地名。古社村国墨田神社の祭神は 鏡作部天糠戸命(あめのぬかどのみこと)。

村国神社

飛鳥時代この地一帯を治めていた村国の祖か天の火明命を祭神として創建された。
弘文元年壬申の乱に大海人皇子の命を受けこの地の豪族村国男衣(オヨリ)は大勝し時の政權についたが天武4年この世を去る。
延久4年白山大権現が合祀され勝利の神としてあがめられている。
重文 村国座 子供歌舞伎で知られている。

村国神社

宝亀年間に一晚で出現
その深さは測り難く龍宮に通じるといふ、八大龍王を祀る。
鎌倉幕府に功績のあった梶原一族の伝説の残る池。

岩の上の石仏
播隆身代大師

歴史民俗資料館

炉畑遺跡公園
約5000年前の縄文中期の集落跡

承久の乱供養塔

あきやま



龍慶山 少林寺

室町時代、文明年間(1469-87)に土豪薄田氏が邸宅を寄付したことからはじまるという。
明応8年(1499)八百津出身で土岐氏出の東陽英朝が開いた寺。信長の兵火で焼失
寛永年間(1624-44)に領主旗本坪内氏が體道和尚開山により再興、菩提寺とした。

旗本坪内氏

関ヶ原合戦前8月、この辺りで岐阜錠織田信秀と徳川方池田輝政が合戦、徳川方勝利。坪内氏は関ヶ原合戦で坪内利定一族は鉄砲隊として貢献したのでこの辺りを知行地として安堵された陣屋を置いた。

新加納道しるべ

中山道：馬籠宿、美濃 16 宿 (13)

平成 26 年 2 月 6 日